

令和4年度 清原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

①活力ある生徒 ②よく考え、創造する生徒 ③豊かな心を持ち、思いやりのある生徒

（2）具体目標（具体的な生徒像な）

①頑張る人 ②考える人 ③思いやりのある人

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

豊かな心と健やかな身体をもち、社会の変化に主体的に関われる能力や創造力を培い、自らの向上とより良い社会の発展を目指し、国際社会に生きる人間性豊かでたくましく生きる生徒を育成する。

3 学校経営の方針

- （1）教職員の和を基調とし、「教師が変われば、生徒も変わる」を信条に、師弟同行の実践を踏まえ、「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導に徹する。
- （2）知・徳・体の調和を図り、各教科等において基礎・基本、体験的な学習や課題学習、個に応じた指導を重視し、自ら学ぶ態度を育成する。
- （3）緑に恵まれた環境を活かし、思いやりや助け合う心を育て、特色ある学校づくりに努める。
- （4）道徳教育・人権教育・国際理解教育の充実と各教科、総合的な学習の時間、特別活動等の特質に応じた指導の深化を図り、生徒の活力を醸成する。
- （5）一人一人の生徒が自己の特性について理解を深め、進路に関する情報を収集・活用し自らの生き方を探求するとともに、進路の選択・決定ができるよう、学校、家庭及び地域社会との連携を密にしながら、指導・支援に努める。
- （6）教職員の働き方の推進に向けて、生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減のために、日課の工夫や IT を活用した業務の効率化を図る。

【清原地域学校園教育ビジョン】

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成 2nd stage
～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

本校教育目標を達成するため、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階と特性等を十分考慮し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成が図れるよう各教科等の指導内容、指導形態、時数等の相互の関連を考慮し、教育課程を編成する。その際、学力の基礎・基本の定着、心の教育、健康安全の確保、地域とともにある学校づくりに留意する。

5 今年度の重点目標 ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学校運営 】

- ・活力ある生徒の育成を目指した活力ある学校づくりの推進～「社会に開かれた教育課程」の理念に基づいた「地域とともにある学校づくり」の推進を通して（創立75周年記念事業関連の活動を活用）～
- ・日課の工夫や ICT の活用による生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減

【 学習指導 】

- ・「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」の育成
- ・学習に1人1台端末などを活用しながら自主的・主体的に取り組み、他者との対話を通して、自らの学びを深めることができる生徒の育成

【 生徒指導 】

- ・「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導の充実
- ・思いやりをもち、認め合い、助け合いながら良好な人間関係を築ける生徒の育成
- ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進・ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止

【 健康（体力・保健・食育・安全）】

- ・自らの命を守り抜くための危機予測・回避能力の育成
- 健康教育及び安全教育を推進し、心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 学習の3つの決まり ・チャイム着席 ・きちんと起立、礼 ・指名されたらハイ の徹底を図る。 ② 4月に配付した「きよはら学習ガイド」を通年で活用し、学習態度や学習の進め方を指導する。 ③ 授業中は、教師の指示や説明を集中して聞くようにさせるとともに、落ち着いた学習環境作りに努める。 ④ グループで話し合う場面や発表する場面を意図的・計画的に設定し、主体的に学習に取り組むようにさせる。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 90.1%（昨年度より 2.2 ポイント↓）で数値指標を 0.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 年度初めに、学習の決まり事「チャイム着席、きちんと起立、礼、指名されたらハイ」の確認を行い、徹底を図る。新入生に対しては、「きよはら学習ガイド」を活用し、家庭学習の推進を図る。話の聞き方、話合いの仕方、発表の仕方などの基本的な学習態度、学習技能の育成を図る。「自主学習ノート」の運用と適切な家庭での学習課題の提示、A I ドリルの活用などにより、一歩踏み込んだ毎日の家庭学習を習慣付ける。
	○A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 道徳科の授業で思いやりについて考えさせ、日常生活において思いやりの心を態度で示すことができるようにさせる。 ② 全教職員は、日常的に生徒の言動に<u>気を配り、ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進をし、ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止を徹底する。</u> ③ 給食活動や清掃活動などの当番活動や係活動において、互いの役割を尊重する意識を高める。 ④ 生徒の活動をしっかりと観察し、望ましい行動を日常的に称賛する。 ⑤ 学校行事後は、統一した振り返りシートを活用し、思いやりの心の大切さや意義に気付くとともに、お互いに認め合えるようにする。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 94.8%（昨年度より 2.0 ポイント↑）で数値指標を 4.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 特別の教科道徳の授業で思いやりの心について考え、学校行事、当番活動、清掃活動などで、道徳的实践力を育むとともに、教職員が望ましい言動の模範を示し、生徒の言動について日常的に気を配る。また、学校生活の中での、生徒の思いやりあふれる行動を称賛できるよう、生徒の活動をしっかりと観察する。 行事等の事後指導では、統一した振り返りシートを活用し、思いやりの心の大切さや意義に気付くようにする。 保護者や地域住民にも、学校ホームページ等を活用し、思いやりのある行動を広報する。

目 指 す 生 徒 の 姿	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① 生徒の委員会活動での自主的な活動を、掲示物やテレビ放送等で知らせ、自分の役割を果たすことやルールを守ることの大切さを理解させる。 ② 全教職員の共通理解・共通認識のもと、決まりやマナーを守らせる指導を行い、できない生徒の言動を見過ごさない指導を適切に行うことにより、規範意識を高めていく。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 93.2%（昨年度より 0.6 ポイント↓）で数値指標を 8.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 教職員の肯定回答率は 98.0%と生徒の肯定的回答を 4.8 ポイント上回っていることから、生徒の規範意識が高まっているということである。定期的に生活を振り返る機会を設定し、教員から良い行動を承認する。 教職員の指導だけではなく、生徒会活動を活性化し、生徒が主体となって、決まりやマナーを守って生活する啓発活動を行う。
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① あいさつの大切さはもとより、あいさつの声が飛び交う明るい学校づくりの一端を担うという意識をもたせ、朝の会や帰りの会時、授業開始時・終了時、給食時のあいさつを習慣化させる。 ② 教職員が自ら率先してあいさつを行う。 ③ 学年委員会を中心としたあいさつ運動を、週 1 回程度実施する。 ④ 校内での来客や、校外の交通指導等でお世話になる P T A や地域の方々にもあいさつができるよう促す。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 97.4%（昨年度と同じ）で数値指標を 7.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 教職員が自ら率先してあいさつを行い、①の取組を中心に、生徒へのあいさつと会釈の励行を重点的に推進する。あいさつの大切さはもとより、あいさつの声が飛び交う明るい学校づくりの一環として担うよう意識を高める。また、定期的にあいさつ強化週間を設定し、生徒会と学年委員会を中心に、生徒を主体としたあいさつ運動を工夫する。
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① 学級活動では、様々な職業の社会的役割や意義を理解させ、自己の生き方を考える指導を取り入れ、学習の意義や価値を考えさせたり、将来設計を行ったりできるよう指導する。 ② 将来の目標に近づくための進路実現を目指して、計画的なテスト前学習に取り組ませ、テスト後の結果の振り返りに、粘り強く取り組ませる。 ③ 「生徒が前面に出る」ために、関わる教職員は成功体験させるための入念な準備を行い、“黒子”に徹することで、「見守り・見届ける」指導の充実を図る。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 88.2%（昨年度と同じ）で数値指標を 3.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 次年度も拡充項目とする。生徒の実態に応じた個別学習やグループ学習、繰り返し学習、習熟度別学習、生徒の興味・関心に応じた課題学習、補的な学習や発展的な学習など個に応じた指導の充実を図ったり、様々な学校行事、校外活動、部活動等を通して、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組むことのできる生徒の育成を目指す。

目 指 す 生 徒 の 姿	○A6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① <u>保健だよりや給食だよりを定期的に発行し、生徒へ健康や安全の重要性について周知する。</u> ② <u>朝食や給食を残さず食べること、歯磨きに関する強化週間を設け、委員会等でも呼びかけを行うことで、健康や食生活に対する意識を高める。</u> ③ <u>安全教育の充実を図るとともに、実技や実験、実習作業を伴う授業においては、生徒自身の危機予測や危機回避などの資質能力を高めるよう、安全に配慮する指導を徹底する。</u> ④ <u>一年中換気を行いつつ、エアコン使用の適切な運営や熱中症計の設置、冬季には加湿器の設置を行い、熱中症や感染症の予防に努める。</u> ⑤ <u>避難訓練を年2回行い、注意すべき点や安全に関する講話をすることで、災害安全や防災に対する関心を高めさせる。</u>	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 94.5%（昨年度より 0.2 ポイント↓）で数値指標を 4.5 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、保健だより・給食だよりを定期的に発行し、生徒・保護者へ食育や健康の重要性について啓発したり、朝食の重要性に関する強化週間を設けたりして望ましい食習慣の育成を図る。 新型コロナウイルス感染症予防については、マスク着用・手洗い・換気の指導を継続していくとともに、5 類移行後はガイドラインに則した指導体制を構築し、実践していく。 教員の働きかけのみならず、より主体的に健康や安全に気を付けられるように促す。そのために、生徒が主体となって専門委員会等で対策を考え、呼びかけを行うなどの啓発活動を行う。
	A7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① 学級活動や道徳で、自己を見つめ、自分が社会のためにできることは何か考えさせ、未来を担う社会人を目指して、夢や目標をもつことの大切さを理解させる。 ② 地域の貢献や社会奉仕の意義を理解させ、ボランティア活動や地域行事に進んで参加できる態度を育てる。 ③ 地域未来会議（12 月）や宇都宮学の授業などを通して、社会に参画し、地域の発展に貢献しようとする態度を育てる。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 88.2%（昨年度と同じ）で数値指標を 3.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 次年度も拡充項目とする。学級活動や生徒会活動で地域や社会に貢献することの大切さを理解させる。社会体験学習を通して、働くことの尊さを実感させ、地域の人と触れ合う機会を通して、主体的に自己の在り方や生き方について考えさせる。また、「地域未来会議」や「宇都宮学」を通じて、地域の方々と世代を越えて、学校や地域の未来などについて議論することで、地域の発展に貢献しようとする態度を育てる。

目 指 す 生 徒 の 姿	A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、英語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① 英語の授業でALTやT2との活動の際、small talkを使って英語でコミュニケーションをとる場を計画的に設定する。 ② 英語の授業で、教員が発する英語の指示に生徒が英語で反応する学習の場面を多く設定する。 ③ 「ALTとコミュニケーション週間」を年に3回設定し、英語を積極的に使う機会を設ける。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 85.3%（昨年度より 1.9 ポイント↓）で数値指標を 0.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続する。普段の英語の授業から、自分や身の回りのことについて、英語で表現する機会を多く設ける。授業以外でも、ALTと積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。国際理解教育を通じて、異文化理解を進めながら、身近な人を尊重し、思いやりをもって接する態度を育てる。
	A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上	① 各教科で地域の良さや学校の良さに触れる題材や学習場面を設定し、郷土に目を向けさせることで、宇都宮の良さに気付くようさせる。 ② 「総合的な学習の時間」での「宇都宮学」において、宇都宮の良さを学ぶ探究活動の充実を図る。 ③ 学校給食では、郷土食や宮っ子ランチを教材にして、宇都宮の歴史や文化について考えさせ、郷土への愛情と誇りをもたせる。 ④ 「宇都宮学」の学習の様子を「学年だより」で発信したり、保護者会等で生徒が発表したりする場を設定する。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 83.4%（昨年度より 0.5 ポイント↓）で数値指標を 3.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き「総合的な学習の時間」での「宇都宮学」において、宇都宮の良さを学ぶ探究活動の充実を図る。LRTや郷土食などの地域の特長を生かしながら、カリキュラムマネジメントの視点から、教科横断的な学習の充実を図る。今年度同様、保護者会やオープンスクールなどで、生徒が発表・発信する機会を多く設けていきたい。
	A 10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① ICT教育チームを中心に、校内のICT教育の体制を整え、教員のICT活用指導能力を高めていく。 ② 教員は、各教科で少なくとも1回は図書室を活用した授業を行う。 ③ 授業参観や一人一授業の公開授業では、ICTや図書等を活用した授業を行う。 ④ 年度当初、タブレットの正しい活用の仕方を生徒に指導する。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 82.1%（昨年度より 2.4 ポイント↓）で数値指標を 2.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、拡充項目とする。ICT支援員と連携しながら、教員のICT活用指導能力を高める。AIDリルの積極的な活用を目指す。図書室の蔵書の更なる充実を図り、図書室での授業の活性化を図る。オンライン学習のガイドラインを整備し、いろいろな事情により教室で学習できない生徒の学びの保障を図る。

生徒の姿勢	A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① 9月の敬老の日に合わせ、道徳の「社会参画、公共の精神」の内容項目を扱い、各家庭の祖父母などの高齢者に対して感謝やいたわる心をもたせ、高齢者をいたわる気持ちを表すことができるようにさせる。 ② 清原老人連合会体育大会では、生徒ボランティアを積極的に活動させる。 ③ 地域協議会との活動や、学習ボランティアなど地域の高齢者との交流を通して、感謝の心を育むようにする。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 94.8%（昨年度より 2.0 ポイント↑）で数値指標を 9.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 特別の教科道徳の授業で、思いやりの心をもって、誰に対しても優しく接することの大切さについて考えさせ、地域に住む高齢者の方々と接する際に、率先していたわる気持ち表すことができるよう指導する。また、ボランティア活動や高齢者との交流の機会がもてない場合があるので、交流の仕方を見直していく。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 「持続可能な社会」を目指すための目標(SDGs)についての掲示物やスライドを作成し、生徒に啓発する。 ② 教室にプラスチックごみ箱、リサイクルボックスを設置し、持続可能な社会の実現に向けた行動に関心を高め、実行につなげる。 ③ 緑化委員会による学校敷地内の花壇の整備や松のこも巻き活動を通して、校内の緑化活動を推進する。 ④ 避難訓練を年2回行い、事後指導では、生徒全員の状況を丁寧に把握し、災害安全や防災に対する関心を高めさせる。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 78.9%（昨年度より 7.3 ポイント↓）で数値指標を 11.1 ポイント下回った。 【次年度の方針】 引き続き、「持続可能な社会の構築」について、教職員や生徒の意識を高める。各教科において「持続可能な社会」についての教材を扱う際に、本校の取組と関連付けることで、生徒にも身近な課題として意識させる。また、防災についても触れる機会を増やしていく。 来年度は緑化・給食・美化・防災などの各委員会の活動内容で、「持続可能な社会」と関係したものを紹介する。
目指す学校の姿勢	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 90%以上	① 教育相談・特別支援教育部会において、生徒の状況についての情報を継続的に共有していくとともに、関係する学年・教職員との連携を図る。 ② 特別な支援を必要とする生徒について、学校生活で配慮が必要な生徒に関して、校内でケース会議を開催し、チームで支援の方法を考える。 ③ かがやきルームや校内適応教室の適正な運用を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 96.0%（昨年度より 2.1 ポイント↑）で数値指標を 6.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 特別支援教育コーディネーターとSCMを中心に、特別な支援を必要とする生徒や配慮を要する生徒への対応方法に関する校内研修を行っていく。かがやきルームや校内適応支援教室の活用の仕方について、共通理解を図るとともに、担任との連携を強化していく。また、教育相談・特別支援教育部会を中心に、情報の共有と、必要に応じて外部機関との連携を図る。

目 指 す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 95%	① 学級担任は、いじめを絶対に許さない毅然とした姿勢で学級経営を行うとともに、「個性」について考え、人との違いをより深く考えさせる場を設定する。 ○② <u>全教職員は、日常的に生徒の言動に気を配り、ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進をし、ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止を徹底する。</u> ③ いじめアンケートや観察から、いじめの早期発見・早期解決を徹底し、未然防止に努める。 ④ 保護者会や学校・学年・生徒指導により・HPなどで、いじめの未然防止について取り上げ、いじめ根絶に向けた本校の取組を発信する。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 94.3%（昨年度より 1.1 ポイント↓）で数値指標を 0.7 ポイント下回った。 【次年度の方針】 いじめアンケートや QI 検査の結果を活用し、定期教育相談等を活用し、いじめを見逃さず認知できるようにする。また、いじめゼロ強調月間には、特別の教科道徳の授業でいじめに関連する授業を実践し、いじめが許されない行為であることを指導し、未然防止に向けて考えさせる。また、生徒主体のいじめ根絶集会を行い、いじめ根絶につなげていく。いじめ根絶に向けた本校の取組を、ホームページ等を活用し、積極的に発信する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の生徒を大切にし、生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 100%	① 学級担任は、係活動や当番活動、授業中の発表などで生徒一人一人の取組の良さを見出し称賛することで、生徒にとって居がいのある学校生活となるような学級経営を行う。 ② 教職員同士で生徒の望ましい言動を伝えあい、生徒の自己肯定感を高めることで、学校全体として生徒を見守り、見届ける指導をする。 ③ 保護者へ連絡をする機会に、生徒の良い点を意図的に伝えるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 98.0%（昨年度より 2.0 ポイント↓）で数値指標と同じ。 【次年度の方針】 学級担任が学級の問題や課題を一人で抱え込まず、学年や全体で情報を共有し、組織的に対応策を考え取り組めるようにする。教職員間で生徒の良い面を共有し、生徒を称賛することで、生徒の自己肯定感を高め、不登校を生まない学級経営を目指す。 教育相談・特別支援教育部会を中心に、配慮生徒への情報を共有し、早期対応ができるよう、教職員が連携していく。

目 指 す 学 校 の 姿	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 90%以上	① 日本語指導に係る母語指導者や日本語ボランティアとの連携を図り、生徒の実態把握と困り感を把握する。 ② 外国人生徒の学習・生活体験等について国際理解担当教員が中心となって、学級担任や学年主任と連携し、共通理解を図る。 ③ 外国人生徒のみならず、保護者会や懇談等で通訳が必要な保護者の実態把握や対応を計画的に行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 96.3%（昨年度より 2.1 ポイント↑）で数値指標を 6.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 取組を継続し、外国人生徒等の実態に応じてケース会議などを開くことにより適切な支援が行えるように対応していく。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自発的な活動を伸ばすようにし、生徒が前面に出るよう、見守り助ける指導にあたる。 ② 学年主任は、学年の生徒たちが生き生きと活躍できる明るい雰囲気となるよう、各学年の諸活動を推進し、自分の学校に誇りをもてるようにする。 ③ 学校生活全般において教職員が意図的・計画的に生徒の頑張りと良さを認め、励まし、称賛する教育の推進を心がけ、生徒が自己有用感を実感できるようにする。 ④ 教職員一人一人が自信をもって自分の業務に取り組み、生徒と関わることで、学校全体が明るい雰囲気になるように努める。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 89.1%（昨年度より 0.4 ポイント↑）で数値指標を 0.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 次年度も引き続き拡充項目とする。 生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自発的な活動を伸ばしていく。生徒の頑張りを生かして、認め励ます指導を推進することから、善い行いや努力をみとる表彰を追加する。 学校全体がさらに明るい雰囲気となる諸活動を推進し、生徒が自分の学校に誇りをもてるようにする。 各行事においては、生徒たちが生き生きと活躍できるような方法を、教職員と生徒が共に考え実施できるように検討していく。 教職員は、業務を一人で抱え込むことなく、協働することで活性化を図る。また、業務を効率化させ、生徒と接する機会を増やす。

目 指 す	A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 主体的・対話的で深い学びに向けた授業の実現を目指す。「今日のめあて」を適切に提示して学習に見通しをもたせ、「振り返り」の時間の確保を徹底することで、学習の達成感をもたせ、分かる授業につなげる。 ② ペアやグループ学習を取り入れた対話的な活動やICTの活用や教材・教具を工夫するなど視覚的な活動を通して、個に応じたきめ細かな指導を図る。 ③ テスト前に補習形式の質問教室を充実させ、個別の指導にあたる。 ④ 指導と評価の一体化を図りながら生徒の学習状況を把握することで、「努力を要する」生徒に対して適切な支援を行う。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 92.1%（昨年度より 0.7 ポイント↓）で数値指標を 2.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 生徒の興味を喚起するような「今日の目標」の提示を行う。「一人一授業」「小中連携」「教科部会」などを通じて、情報交換を行い、授業の改善点や指導方法などについてアドバイスし合う。各種学力調査の結果を詳細に分析し、今後の教科指導に生かす。指導と評価の一体化を図り、生徒一人一人の良さを適切に評価し、生徒の資質・能力を伸ばす。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 90%以上	① 学校行事や諸活動では、目的や方法の共通理解を丁寧に行うことで、教職員全員が協力して業務に取り組む。 ② 担当者による報告・連絡・相談を徹底し、必要に応じて全体への周知を図る。また、諸活動の実施後は取組の検証を行い、改善策を次に生かすことで、チームとしての質の向上を図る。 ③ 生徒理解や配慮を要する生徒の適切な対応には、SCMを中心にSC、MS、学年や学級担任との連携を密にし、全職員で情報共有や協力した取組を行う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 96.0%（昨年度より 0.1 ポイント↑）で数値指標を 6.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 生徒理解や配慮を要する生徒の対応等において、担任が一人で抱え込むことのないよう、さらにチームで取り組んでいく。また、教職員の共通理解のもと行事等に取り組むとともに、互いに進捗状況を確認する。

学 校 の 姿	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 70%以上	① 出退勤記録の入力や適切なリフレッシュデーの設定により、勤務時間の意識化を図る。 ② 諸会議録や連絡事項、学年・教科間で共有できる電子データを活用して業務の効率化を行う。 ③ 定期的にアンケートなどを実施し、業務改善を図ったり、校務運営委員会や学年主任会、職員会議を活用して、学校行事の円滑な運営や計画的な学年経営を行う。 ④ 部活動顧問を複数配置し、ローテーションで指導にあたる。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 76.0%（昨年度より 10.7 ポイント↑）で数値指標を 7.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 肯定的回答が大幅に増加したが、引き続き、拡充項目とする。ICT・さくら連絡網等を活用し、学校業務のペーパーレス化・白黒プリントの推奨を推進する。また、勤務超過時間が 60 時間を超える教職員に業務の効率化を呼びかけるとともに、タイムマネジメントの必要性を推奨する。また、諸会議等の計画的・能率的運営をさらに推進する。
	○A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 90%以上	① 乗り入れ授業、小中情報交換会、児童生徒指導強化連絡会、あいさつ運動、お弁当の日、小学 6 年生の中学校訪問など、小中の連携を図り、取組の充実を図る。 ② 地域学校園教職員研修の授業研究を行い、その指導法や成果等を共有し教科指導力向上を目指し、次年度に向けた課題の洗い出しをする。 ③ 学校ホームページや学校だより、「地域協議会だより」や「清原地域学校園だより」において、小中一貫教育や地域学校園の活動の様子を保護者や地域に周知する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 98.0%（昨年度より 2.1 ポイント↑）で数値指標を 8.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 コロナ禍で中止になっていた行事等も徐々に実施されるようになり、引き続き、小中連携の取組を無理のないように効率的に継続していく。特に小中合同のあいさつ運動や小 6 中学校訪問などを通して、子どもたちの意識を高めていく。また、今後も、各種たよりやHP等を通して保護者や地域に向けたPR活動を行う。
	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 95%以上	① 地域コーディネーターと連携し図書館や学習活動等のボランティアなど、地域人材を活用した諸活動を推進する。 ② 各学年のクリーン活動や美化委員によるとびやま城址跡公園ボランティア清掃、学校敷地内の緑化環境整備をPTAや地域と協力して行い、運営の充実を図る。（R5・75 周年記念行事を意識した取り組み） ③ 地域の教育力を生かした特色ある活動を学校だよりやHPなどで積極的に情報発信する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 98.0%（昨年度と同じ）で数値指標を 3.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 75 周年記念事業を意識しながら、今まで行ってきた松の木のかも巻き、クリーン活動など地域学校協働活動推進員と連携した学校教育の充実を図る。地域の行事へのボランティア活動も継続していく。それらを学校だよりやHP等で発信するとともに、校内掲示板に掲示する。
目 指 す 学 校 の			

姿	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 95%以上	① 清原中学校地域協議会の協力を得て、学習ボランティアや校内環境整備活動等を展開しながら学校運営の充実を図る。(R5・75周年行事を意識した取り組み) ② 青色防犯パトロールや下校指導をPTAや地域協議会と連携して実施し、生徒の安全確保の協力を得る。 ③ 「地域未来会議」を12月に実施し、清原地域の未来について生徒と地域、家庭と協議する場を通して、郷土を愛し地域の未来を創造しようとする生徒の育成に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 98.0%（昨年度と同じ）で数値指標を 3.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 地域連携教員が主務者となり、地域や家庭との連携を充実させる。特に、「地域未来会議」では、地域学校協働活動推進員と連携し、さらなる学校教育の充実を図る。学校たよりやHPを用いて、地域や保護者に積極的に発信する。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 100%	① 毎月1回の安全点検を丁寧に行い、危険箇所の早期発見を心がけ、早期対応を図る。 ② 台風や地震、落雷、降雪などの災害発生前後に校舎内外の巡視を行い、危険回避につとめるとともに、危険箇所の早期発見・早期対応を図る。 ③ 来校者をチェックし、名札の着用を求めるとともに、校門を登下校時以外は閉めておく。 ④ 感染症予防のために、来校者が校内に入る場合はマスク着用と手指消毒を求める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 98.0%（昨年度と同じ）で数値指標を 2 ポイント下回った。 【次年度の方針】 引き続き、防犯カメラ等で来校者に対するチェックを行うとともに、登下校時以外の校門の閉鎖を徹底する。 感染症予防のため、来校者が校内に入る場合はマスク着用・手指消毒をお願いしていく。さらに5類移行後はガイドラインに則した感染症対策を構築し、実践していく。 安全点検を丁寧に行い、危険箇所の早期発見・早期対応を継続する。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 90%以上	① 生徒が授業や家庭持ち帰りにおいて、タブレットを快適に使用できるよう適切に管理・運営する。また、教職員に周知していくことで、授業での活用率を上げていく。 ② 職員室の棚に書画カメラやDVDプレーヤー、CDラジカセ等を置き、管理簿を用いて紛失を防ぎ、定期的にメンテナンスをするなど、保管・整備を工夫する。 ③ 必要図書アンケートを教職員や生徒に行って希望図書を購入し、学習に活用しやすいように、テーマ別にコンテナに分けておく。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%（昨年度より 2.0 ポイント↑）で数値指標を 10.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、生徒向けに「タブレット使用上の注意」を周知し、生徒全員が快適に使用できる環境を整えていくとともに、書画カメラ等の機器に関しても使用しやすいように工夫していく。学校図書館に関しては、学校図書館図書標準に近づくよう整備できたので、来年度は整備をさらに進めるとともに、今年度以上に図書室の積極的な授業活用を目指す。

本 校 の 特 色 ・ 課 題 等	B1 生徒は、家庭学習の習慣化を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、自主的に家庭学習に取り組んでいる。」⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 各学年最初のガイダンスにおいて、具体的な家庭学習の仕方を指導する。また、学年だよりで保護者にも見守りを依頼し、家庭の協力を得る。 ② 学習委員会が中心となり、自主学習ノート提出の呼びかけやチェックを行う。また年4回、自主学習ノートを毎日提出できた生徒の表彰や、優秀なノートの展示を行う。 ③ 自主学習ノートの確認を朝の時間を利用して学年体制で行う。未提出の生徒や取組が不十分な生徒には、学級担任が学習の仕方等を個別指導する。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 88.4%で数値指標 1.6 ポイント下回った。 【次年度の方針】 次年度は拡充項目とする。 生徒の肯定的回答は3年連続で低下しているため来年度は拡充項目とする。家庭学習への意欲を向上させるために学習委員や学級担任と連携しながら、効果的な学習方法や自分に合った学習方法を見つけさせ、継続的かつ粘り強く取り組ませて学力向上を目指す。保護者会や懇談等の機会に、家庭での適切な働きかけについて確認・共有する。
	B2 生徒は、草花栽培活動やクリーン活動に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、クリーン活動や草花栽培に取り組んでいる。」⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 緑化委員会による花壇の整備や水やり、中庭の緑化環境を充実させる。また、緑化委員の取組として校内掲示板で周知する。 ② 学年ごとの校内クリーン活動を年2回、11月に美化委員会によるとびやま城址跡清掃ボランティアを行い、環境美化の意欲を高め、生徒がより主体的に活動が行えるように働きかける。 ③ 特色ある学校づくりの一端として、1学年の総合的な学習の時間における草花栽培活動や食農体験活動を充実させ、生徒の自主的・主体的活動を促すようにする。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 89.4%で数値指標を 0.6 ポイント下回った。 【次年度の方針】 75 周年記念事業の一環として校内環境緑化を緑化委員会や美化委員会の活動を中心に強化していく。校内クリーン活動や美化コンクールなど、全校生徒で活動する取組を継続し、地域協議会やPTAと連携した活動も継続していく。

本校の特色・課題等	○B3 生徒は、交通ルールやマナーを守って安全に登下校をしている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、交通ルールやマナーを守って安全に登下校をしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%	① <u>年度初め、新入生に向けた交通安全指導の徹底と交通安全教室を年2回実施し、交通安全への意識を高める。また、定期的に登校指導や日頃の交通マナーを確認するとともに、生徒の通学状況及びLRT工事などによる危険個所の把握に努める。</u> ② 部活動終了後の日々の下校指導や、PTAの年間を通した下校指導、年2回の自転車点検を行うことで、安全に登下校ができるよう指導する。 ③ <u>交通安全委員が帰りの会で反射ベスト点検やヘルメットのあごひも点検を行い、安全に登下校できるよう呼びかけをさせる。また、「交通安全週間」を設けることで、改めてマナーや危険個所を振り返られるよう指導する。</u> ④ 交通事故が発生した際は、教職員が現場に出向いて現状確認と適切な対応処置を行い、再発防止に向けて全生徒に指導を行う。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 89.8%で数値指標を 1.2 ポイント下回った。 【次年度の方針】 引き続き、拡充項目とする。年2回の交通安全教室を実施し、交通安全への意識を高めるとともに、月1回の登校指導や日頃の交通マナーを確認し、生徒の通学状況及び危険個所等の把握に努める。特に、年度当初に新入生に向けた交通安全指導を強化する。 交通安全委員の取組を継続し、生徒が安全に登下校できるように呼びかけを行うとともに、下校時の反射ベスト着用の徹底を図る。 また、生徒が交通ルールを守らず登下校している姿が見られたら、放送等で呼びかけをし、自分たちの交通マナーや危険個所を改めて振り返るように指導する。
------------------	---	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・教職員、保護者、地域住民及び生徒の全アンケート85項目において、52項目（61.2%）が昨年度よりも肯定的回答の割合が上回った。（100%→100%も含む）
- また、30項目の目標数値指標のうち20項目（66.7%）が指標を達成し、市中学平均を上回った項目は75項目中54項目（72.0%）であった。改善が見られた項目と課題がある項目は以下の通りである。
- 引き続き、課題解決に向けた取組を継続していきたい。

（１）昨年度との比較から

① 特に改善が見られた項目（教職員・保護者・地域住民・生徒すべて昨年度よりも上回った項目）

- ・「A2・A11 生徒は、思いやりの心をもっている」
〔教職員 98.0%（2.1P↑） 保護者 92.9%（3.0P↑） 地域住民 100%（5.9P↑） 生徒 94.8%（1.9P↑）〕
- ・「A4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」
〔教職員 90.0%（0.2P↑） 保護者 92.1%（2.2P↑） 地域住民 100%（5.0P↑） 生徒 97.4%（→）〕
- ・「A13・A16 教職員は特別支援生徒、外国人生徒等に適切な支援をしている」
〔教職員 96.0%（2.1P↑）〕
- ・「A17 学校全体に活気がある」〔拡充項目〕
〔教職員 96.0%（2.1P↑） 保護者 93.3%（1.5P↑） 地域住民 100%（→） 生徒 89.1%（0.4↑）〕
- ・「A19 学校がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」〔拡充項目〕
〔教職員 96.1%（0.1P↑）〕
- ・「A20 学校は業務の効率化に取り組んでいる」〔拡充項目〕
〔教職員 76.0%（10.7P↑）〕

② 特に課題となる項目

- ・「A1 生徒は、授業中、進んで学習に取り組んでいる。」
〔教職員 92.0%（6.0P↓） 保護者 86.6%（2.3P↓） 生徒 90.1%（2.2P↓）〕
- ・「A9 生徒は、宇都宮の良さを知っている」
〔教職員 84.0%（3.8P↓） 保護者 64.5%（1.7P↓） 生徒 83.4%（0.5P↓）〕

- ・「A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている」
〔教職員 84.0% (2.4P↑) 生徒 78.9% (5.2P↓) 〕
- ・「B1 生徒は、自主的に家庭学習に取り組んでいる。」
〔教職員 96.0% (4.2P↑) 保護者 68.2% (9.8P↓) 生徒 88.4% (2.0P↓)〕

(2) 市中学校の平均との比較から

① 特に良さが見られた項目

- ・「A20 学校は業務の効率化に取り組んでいる」
〔教職員 76.0% (市より 10.4P↑)〕

② 課題となる項目

- ・「A21 学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。」

〔教職員 98.0% (市より 8.6P↑) 保護者 83.2% (市より 0.3P↑) 地域住民 100% (市より 5.0P↑) 生徒 57.5% (市より 5.2P↓)〕

(3) 目指す生徒の姿の状況から

- ・「生徒は、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる。」の生徒の肯定回答率が昨年度と同じ値であり、市の平均を上回っている。今後も「本時の目標」を明確にし、「振り返り」から生徒の学びに向かう態度を適切に見取りながら、基礎・基本の定着を図る。また、自主学習ノートやA I ドリルを活用し、一歩踏み込んだ家庭学習の指導をしていく。(学習と情報)
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学校活動に制限はあったものの、行事等を工夫しながら実施し、思いやりの心の成長がみられた。道徳の時間で思いやりの心を育む授業を展開し、思いやりの心を学校生活で実践できるように、継続して思いやりを育む活動を工夫していく。高齢者に対するいたわりの心は、今年度は交流活動が中止となってしまったので、次年度以降、活動が再開されたときには、計画的に指導していく。(心と生活)
- ・学校全体として、生徒は決まりやマナーを守り落ち着いて生活している。多くの生徒が決まりやマナーを守って生活していると考えている。次年度もそれを継続できるように指導に当たる。(心と生活)
- ・食育だよりや保健だよりの発行、避難訓練の実施により生徒の健康・安全についての意識を高めることができているが、今後はより生徒が主体的に意識を高められるように、委員会での呼びかけなども行っていく。(健康と安全)
- ・「生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」の生徒の肯定的回答率は、市平均は上回っているものの、昨年度より下降しているため、目標値には届かなかった。今後も普段行っている活動を紹介したり、各教科の授業で扱ったりするなど生徒への啓発を継続する。(健康と安全)

(4) 目指す学校の姿の状況から

- ・今後もICTや学校図書館を活用し、個に応じたわかりやすい授業を展開し、個別最適な学びを推進する。1人1授業公開を行い、授業を互いに見せ合うことで、授業の質的改善と授業力の向上を図る。(学習と情報)
- ・定期教育相談やいじめアンケートの実施などでいじめが認知された時、教職員は組織的にいじめ解消に向けて指導することができた。そういった教職員の姿から、生徒はいじめが許されない行為であることを教職員が指導しているととらえている。今後も指導を継続し、いじめの未然防止、早期対応を心がけて指導していく。(心と生活)
- ・不登校を生まないために、教育相談・特別支援教育部会や、必要に応じてケース会議を行い、配慮生徒の早期発見と早期対応をしている。集団不適応の生徒も増えてきている中、校内適応支援教室の活用も工夫されてきた。次年度も継続して、個別の対応方法について更に工夫・改善をしていく。(心と生活)
- ・今後も、危険個所の早期発見や早期対応を図るために、日頃からの安全点検を徹底していく。感染症対策においても国・県・市のガイドラインを踏まえた体制を整備していく。(健康と安全)
- ・「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」の肯定的回答が大きく市の平均を上回っている。教育相談部会での共通理解や、配慮生徒、問題行動への対応の複数での対応、SCMによる担任とSCやMSのコーディネートが密に行われたことなどにより、担任が一人で抱え込む事案がなくなっている。(学校運営)
- ・「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」は、今年度最も大きく上昇した項目であるが、「働き方改革」の趣旨を踏まえて、さらに業務内容を見直すとともに効率化を図りたい。(学校運営)

(5) 本校の特色・課題等の状況から

- ・学習委員による自主学習ノート提出の呼びかけや模範ノートの展示により、自主学習ノートの活用方法の共通理解が図られた。それにより、多数の生徒が自主的に家庭学習に取り組むようになったが、さらに質的向上を目指し、学力向

上を図っていききたい。(学習と情報)

・交通安全教室を実施し、反射材をつけるなどの取組を通して生徒の交通安全への意識は高まりつつある。今後もより一層の交通マナーの向上が望まれるため、生徒が主体となって自分たちのマナーを振り返れるよう促すことで、登下校中の交通事故ゼロを目指していききたい。(健康と安全)

・今後も緑化委員・美化委員を中心に地域協議会等とも連携しながら、環境緑化・美化活動を推進していききたい。特に75周年記念事業の一環として、学校環境整備計画を考えていききたい。(学校運営)

7 学校関係者評価

地域協議会等での意見、アンケートの結果を以下にまとめた。

随所に、学校を応援してくださる温かい思いが感じ取れた。

(1) 本校生徒のマナーについて

- ・反射ベストを着ていない生徒を見かける。自転車のマナーの悪い生徒も見かける。右側通行、並進等
- ・自転車通学の安全確認が必要ではないでしょうか。
- ・しっかりあいさつができ素晴らしいと思います。ただ、思いやりが少し人により差があるような気がします。
- ・地域住民の数値が全て増えてます。地域住民から見ても、生徒たちのあいさつ、マナー等々が向上したと感じられたからだと思います。
- ・あいさつ、自転車の乗り方など守って、気持ちよさを感じます。
- ・あいさつ運動では、しっかりあいさつに取り組む姿が見られ素晴らしい。
- ・元気がない。おとなしい。
- ・マナーがしっかりしている印象です。交通マナーもいいし、あいさつもできると思います。
- ・朝、通学途中の生徒が横断歩道を渡ろうとしている時に停車して、渡してあげると、笑顔で会釈してくれる子たちが増えている気がします。(60%くらい) 自分も気分が良いし、生徒の安全にもつながると思います。そんな子どもたちがもっと増えてくれると良いと思いました。

(2) R4 学校評価項目、R5 学校経営方針(案)の内容について。

- ・「大変なことがあっても、めげずに取り組む力を育成していきたい」との話があり、そのとおりだと思いました。成功体験だけでなく失敗する経験も大切なのかなと思います。転ばぬ先の杖ではなく、転んだ後にどうするかを学んでほしいと思います。
- ・教職員、生徒、保護者、地域住民と数値に差がある原因として、子と親のコミュニケーションが少ないのか、ホームページを見ていないのか、学校生活の内容の把握ができていないのが数値低下につながっているのかなと思いました。
- ・今後、生徒増が見込まれるとのことですが、一人一人の特性の理解を深めることが本当にできるのでしょうか。また、ゆとりをもった生活を生徒に送ってほしいとのことですが、今の時点で減らせることというのはどういう内容なのか知りたいです。
- ・「ゆとり」の言葉に感激しました。
- ・校長先生の思いを全ての教職員にしっかり伝えてほしいです。
- ・教職員、生徒、保護者、地域住民とも高い数値が多く、教育活動が順調に行われ、成果が表れていると感じています。
- ・ICT機器の保護者の評価が低いのが気になります。保護者の関心が低いのか、理解不足なのか、他校でも同じような傾向と想定されます。これが教職員や生徒の足を引っ張ることがないように祈りたいです。情報モラル教育をうまく取り込めると良いと思います。
- ・「前向きな気持ち」「粘り強く」については地域の大人として、行動で示すスタイルが良いのでしょうか。
- ・ICT機器の導入により、活発な学習ができている反面、依存度も高くなっているように感じます。視力低下等の心配もありますので、使用時間や画面との距離についてもご指導いただきたいです。R5年度の経営方針につきましては、掲げていただいた目標に向かって全体が協力していければと思います。
- ・校長の90%の生徒は学習にしっかり取り組んでいるので、残り10%に手を差し伸べるという考え方に共感しました。何ができるかわかりませんが、何かお手伝いしたいと思います。

- ・多くの項目で前年比、同じか上向き傾向にあり、大変素晴らしいと思いました。Ｒ５年度は、さらに活力ある学校になっていくことを御祈念申し上げます。
- ・経営方針等を伺い、また「校長室からこんにちは」を拝見すると、生徒たちが生き生きと中学校生活を送っていることが伝わってきました。

（３）その他

- ・学校ＨＰ、定期的に見させていただいてます。子どもたちが生き生きと活動している様子がよくわかります。先生方が愛情を注ぎ、指導してくださっていることも感じます。これからも楽しみにしています。
- ・会議の後半に、学校応援基金や学習支援ボランティアを地域の方をお願いする話がありました。昔も今もこれからも子どもたちは地域で育てていくもので、学校だけをお願いするべきものではないと思うので、基金やボランティアのお願いは当たり前前で賛成です。清原地区の未来を話せる大人になるよう育てていきたいですね。
- ・担任と生徒の距離が近く楽しく生活が送れている気がします。
- ・コロナ収束の兆しがなかなか見えない中、年間通して様々な行事を生き生きと行っている生徒たちにエールを贈るとともに私自身パワーをいただいています。
- ・コロナで大変な２～３年間でいろいろな面で取り返してあげられるようにしてほしいと思います。（子どもたちの成長のために大切な行事等ができずにいたので）

８ まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

活力ある生徒の育成を目指した活力ある学校づくりの推進

今年度は、新学習指導要領完全実施２年目ということで目指す資質・能力、教科等の評価の観点も明確化され、それに対応するため、何をすべきか、何ができるか、どうしたらできるかを本校生徒の実態を踏まえ、教職員全員で創意工夫をして、一つ一つを丁寧に取り組んできた。また、ＧＩＧＡスクール構想によりＩＣＴ活用場面が一気に増え、授業はもちろんのこと、運動会、文化祭のライブ配信や感染症による不登校、出席停止生徒への授業配信など、従来の教育活動が様変わりした。このような多様化していく学校教育にあって教職員が疲弊しないよう業務の効率化、縮減等、「働き方改革」をさらに推進していくことも重要である。

全体アンケートでは、前年度との比較で肯定的回答率が上回っている項目が多数見られ、特に地域住民の数値が上昇し、有難く感じるとともに、学校への期待が高いことの表れと受け止めている。この結果は、コロナ禍で中止になっていた諸行事が完全な形ではないにせよ実施でき、ライブ配信、学校だより、ホームページ等で保護者や地域住民に学校の様子をお知らせできたことなどが功を奏したと考えられる。

活力ある生徒の育成が、活力ある学校づくりにつながることや地域の発展に貢献することから、次年度も「活力ある生徒の育成を目指した活力ある学校づくりの推進」を掲げることとした。今年度の課題を踏まえ、「前向きな気持ちをもって、粘り強く」をモットーに、以下の項目に重点を置くことで生徒・教職員・家庭・地域の良さを十分に発揮しながら、地域とともにある学校づくりを継続して進めていく。

○（１）確かな学力を育む教育の推進

「Ａ５ 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」

「Ａ７ 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。」

「Ａ１０ 生徒は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。」

「Ｂ１ 生徒は、生徒は、家庭学習の習慣化を図っている。」を拡充項目とする。

ここでは、主体的・対話的で深い学びを通して、認め励ます指導の充実と学びに向かう望ましい集団作りをねらいとする。また、「宇都宮学」や「キャリア・パスポート」の活用を推進して、自分たちが社会のためにできることは何かを考え、社会に貢献することの大切さを理解させる。授業でも「今日の目標」を確実に理解させ、「振り返り」から生徒の学びに向かう態度を適切に見取ることで、課題解決にあきらめず粘り強く取り組むことができる力を身に付けた生徒の育成を図り、確かな学力を育む教育を推進する。また、次年度も生徒が主体的にＩＣＴや学校図書館を活用する授業の工夫を進める。家庭学習においては「自主学習ノート」の運用と適切な家庭での学習課題の提示、ＡＩドリルの活用などにより、一歩踏み込んだ毎日の家

庭学習を習慣化させる。

○（２）豊かな心を育む教育の推進

「A3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」

「A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」を拡充項目とする。

ここでは、他者を思いやる心を醸成し、生徒の自尊感情や規範意識を高めることをねらいとする。

地域学校園の重点目標である道徳科における「公德心」を育む教育を推進する。

また、コロナ禍による制限が緩和されていく中で、生徒たちが生き生きと活躍できるような場を増やし、方法を工夫していく。そして、意図的・計画的に生徒の頑張りや取組の良さを認め、励まし、称賛することで自己肯定感を高めていく。

（３）健やかな体を育む教育の推進

「B3 生徒は、交通ルールやマナーを守って安全に登下校をしている。」を拡充項目とする。

ここでは、健康で安全な生活を送るため、生徒が自らの命を守る行動力を身に付けることをねらいとする。

今後の生徒数の増加により、自転車の乗り方についてのルールの遵守が必須であり、交通安全教室のみならず、教科や学校行事での危機予測・回避能力の育成を通して、健やかな体を育む教育を推進する。

（４）教職員の働き方改革の推進

「A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」を拡充項目とする。

今年度大きく上昇したが、働き方を見直すタイムマネジメントの推奨と業務の効率化を今後も推進していく。また、「チーム学校」として業務改善の目指す方向性を示していく。